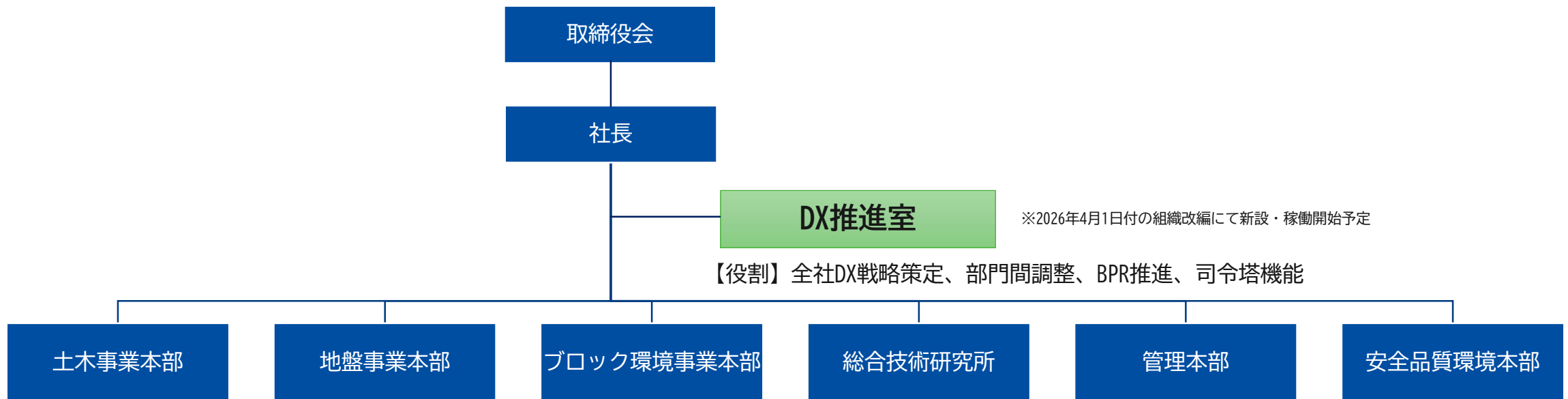


# 持続的な企業価値向上のための DX推進計画

---

## 【社長直下の「DX推進室」が司令塔となり、全社変革を牽引する】



【役割】 各部門における施策実行（BIM/CIM、ICT活用、業務改善等）

## DXビジョン

当社は、デジタル技術の力でサプライチェーン全体の変革を牽引し、  
生産性、安全性、そして働き方の抜本的な改革を実現します。  
独自の技術をさらに高め、豊かで安全・安心な社会の実現に貢献し、  
すべての社員が誇りを持って働ける「選ばれる企業」を目指します。

## ビジョンを支える3つの戦略カテゴリー

### I. 守りのDX

#### デジタル基盤とガバナンスの強化

1. データドリブン経営
2. BPRと次期基幹システム
3. ITガバナンスとセキュリティ

### II. 攻めのDX

#### 事業競争力の強化

1. BIM/CIMの戦略的活用
2. 施工の自動化・ICT・AI
3. GX・防災への貢献

### III. 組織・文化の変革

#### DX人材と働き方

1. 魅力ある職場・人材戦略
2. 全社的な情報共有
3. DXリテラシーと人材育成

## I. 守りのDX（デジタル基盤とガバナンスの強化）

### 1. データドリブン経営

データのサイロ化を解消し、BI等を活用したリアルタイムな経営判断を可能にする基盤を整備する。

### 2. BPRと次期基幹システム

システム導入に先立ち、全社的な業務プロセスの棚卸しと標準化・最適化（BPR）を先行させる。

### 3. ITガバナンスとセキュリティ

グループ全体のIT投資判断基準を明確化し、サイバーセキュリティ体制を再整備する。加えて、定期的な内部監査を実施し、運用状況の客観的な評価と継続的な改善を図る。

## II. 攻めのDX（事業競争力の強化）

### 1. BIM/CIMの戦略的活用

施工の高度化と協力会社を含めたデータ連携を主眼に置き、手戻り削減と生産性向上を実現する。

### 2. 施工の自動化・ICT・AI

危険作業の無人化・遠隔化を進め、ICT・AI技術の積極導入により、施工の抜本的な効率化を図る。

### 3. GX・防災への貢献

CO2排出量の「見える化」や、デジタル技術を活用した災害時の迅速な状況把握など、社会貢献に繋げる。

## III. 組織・文化の変革（DX人材と働き方）

### 1. 魅力ある職場・人材戦略

デジタル技術を活用した技能継承と効率的な働き方を実現し、人材の獲得・定着率向上を目指す。

### 2. 全社的な情報共有

導入済みツールの活用を高度化し、部門の壁を越えたスムーズな情報共有と業務効率化を促進する。

### 3. DXリテラシーと人材育成

全社員の基礎教育を必須とし、各部門の実務をリードするDX推進人材を計画的に育成・確保する。



## フェーズ1： 立ち上げ・基盤強化期

(～2026年3月)

テーマ： 推進体制の確立と  
DX認定取得

### 主要施策：

- ・ 社長直下「DX推進室」新設準備
- ・ セキュリティ規定改定・体制整備
- ・ 全社DXリテラシー教育開始  
(eラーニング等)



## フェーズ2： BPR・業務標準化期

(2026年4月 ～ 2028年3月)

テーマ： **【最重要】**  
システム導入前の  
徹底的な業務棚卸し

### 主要施策：

- ・ 全社BPR（業務プロセス改革）実行
- ・ 不要業務の廃止・標準化
- ・ データ活用トライアル  
(Quick Win)
- ・ BPRに基づく次期基幹システム  
構想・要件定義



## フェーズ3： システム刷新・変革加速期

(2028年4月～)

テーマ： データドリブン経営と  
自動化の本格展開

### 主要施策：

- ・ 次期基幹システム構築・稼働
- ・ AI自動化・自律化の本格運用
- ・ サプライチェーン（協力会社）  
連携
- ・ BPRに基づく次期基幹システム  
要件定義

| 区分                        | フェーズ 1                      | フェーズ 2                                   |                 | フェーズ 3                        |
|---------------------------|-----------------------------|--|-----------------|-------------------------------|
|                           | 立ち上げ・基盤強化期<br>～2026.3月      | 2026年4月～2027年3月                          | 2027年4月～2028年3月 | 2028年4月～<br>(変革加速期)           |
| ○経営・推進体制                  | ◆ DX認定取得                    | ★ 新組織発足                                  |                 |                               |
|                           |                             | 全社PMO・投資対効果モニタリング                        |                 | データドリブン経営定着                   |
| I. 守りのDX<br>(基盤・ガバナンス)    | 現状課題整理<br>セキュリティ規定改定        | 【最重要】全社業務プロセス改革(BPR)<br>次期システム構想         | 次期システム要件定義      | 次期基幹システム構築・移行<br>レガシーシステム完全撤廃 |
| II. 攻めのDX<br>(事業競争力)      |                             | データ活用パイロット運用(QuickWin)<br>BIM/CIM施工連携標準化 |                 | AI自動化・自律化本格運用                 |
|                           |                             | 独自技術開発                                   |                 |                               |
| III. 組織・文化の変革<br>(人材・働き方) | 全社eラーニング開始<br>DXリテラシーアセスメント | 全社DXリテラシー向上策の実施<br>各部門DX推進リーダー育成         |                 | 自律的学習文化の定着                    |

## 「活動量」から「成果」重視への転換による実効性の向上

DX戦略の成果を可視化するため「実施数（アウトプット）」だけでなく、経営・業務への「具体的な効果（アウトカム）」を最重要視したKPIを設定。定期的なモニタリングにより、戦略の確実な達成と軌道修正を図る。

| 戦略カテゴリー  | 主要KPI指標（成果・アウトカム）<br>※経営・業務・組織への直接的な成果（優先度：高）  | 活動・基盤指標（アウトプット）<br>※施策の実行数や環境整備状況（優先度：中・低）  |
|--|--|---|
| <b>I. 守りのDX</b><br><b>（基盤・ガバナンス）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ経営</li> <li>BPR</li> <li>セキュリティ</li> </ul>    | <b>【経営判断・効率化】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>月次決算の早期化日数</li> <li>データに基づき実行された経営会議・投資判断の件数</li> <li>BPRによる業務プロセス削減数（廃止・標準化）</li> <li>事務処理・手入力作業工数の削減率</li> </ul> <b>【リスク管理】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>重大なセキュリティインシデント発生件数（ゼロ目標）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>経営層/管理職のBIダッシュボード利用率</li> <li>全社データ統合率</li> <li>主要な事務手続きの電子化（ペーパーレス）率</li> <li>レガシーシステム維持コストの削減率</li> <li>全社員のセキュリティポリシー理解度テスト平均点</li> <li>情報セキュリティ内部監査の実施と改善対応完了率</li> <li>DX投資ポートフォリオ比率（攻めと守りのバランス）</li> </ul> |
| <b>II. 攻めのDX</b><br><b>（事業競争力）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>BIM/CIM</li> <li>自動化/AI</li> <li>GX/防災</li> </ul>  | <b>【生産性・利益】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人当たり施工生産性（粗利および売上高）の向上率</li> <li>BIM/CIM活用による施工手戻りの削減件数</li> </ul> <b>【安全性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>危険作業（高所・酸欠等）の無人化・遠隔化率</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>主要プロジェクトにおけるBIM/CIM活用率</li> <li>施工時間の短縮率</li> <li>遠隔臨場・遠隔操作の導入現場数</li> <li>AIによる危険予知・工程管理の導入数</li> <li>施工時CO2排出量の「見える化」実施数・削減率</li> <li>災害時の状況把握にかかる平均時間（短縮率）</li> </ul>   |
| <b>III. 組織・文化の変革</b><br><b>（人材・働き方）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>エンゲージメント</li> <li>情報共有</li> <li>育成</li> </ul> | <b>【組織力・人材】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>従業員エンゲージメントスコア</li> <li>認定DX推進人材の育成人数</li> </ul> ※「自分事」としてDXを推進できる中核人材の数）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>採用応募者数（DX発信による効果）</li> <li>熟練技術者の技能継承DB構築数</li> <li>全社員のDXリテラシーアセスメント平均スコア</li> <li>DX基礎教育の受講完了率</li> <li>情報検索・共有にかかる平均時間</li> <li>会議時間・会議数の削減率</li> </ul>   |



株式会社 不動テトラ